

# ガーデニングに挑戦(3)

経営企画室副担当 不破 規智

ガーデニングに使う植物にはさまざまな種類があり、「今年は何をどのように植えようか」と、シーズンを前にあれこれ考えるのは楽しいものです。失敗しない安全なやり方として、実績のある花の種類と植え方を変えないのも一つの方法ですが、新しい植物と植え方、使い方に挑戦することでガーデニングの楽しみは広がります。今回はガーデニングの楽しみを広げてくれる、植物の植え方と使い方をご紹介します。

## <同じ色を一定間隔で植える>

よく見かける植え方です。公園や道路脇の花壇では同じ花の同じ色を使ってまとめることで、遠くから見てきれいに映える植え方がされています。この場合はだいたい20cm間隔で植えられることが多いようです。広い場所を彩るのに向く方法ですが、個人の庭で身近に花を楽しむならば、もっと多くの種類や色を使いたいですね。



【歩道脇のサルビア花壇】

## <混色植えを楽しむ>

例としてパンジーの苗を個人の庭で植える場合、よく見かけるやり方は前列と後列で色を変えるようなパターンです。色の組み合わせを楽しむにはこれもよい方法ですが、少ない苗で工夫するなら、互い違いに色を変えるのも面白いと思います。また、近年は、一つ

のポットに複数の色の品種が植えられたポット苗が流通していますので、小さな面積で楽しむにはこのような苗を使うのもよいでしょう。



【混色植えのパンジー】

## <アクセントをつける>

ガーデニングで使う草花は、鮮やかな目立つ色の花が選ばれがちです。しかし強い色の花ばかりが咲いていると落ち着かない印象になってしまいます。

一方、1色だけでは目立たないような落ち着いた色の花に別の色を少し加えると、色の組み合わせによって、意外なほど互いが生きる効果が生まれます。ガー



【桜色のペチュニアとカリフォルニアポピーの組み合わせ】



デニングの寄せ植えでは、このような工夫も楽しみのひとつです。

## <植物の高低を組み合わせる>

寄せ植えでは、花の色だけでなく草丈の高低差をつけて立体的に仕上げると、それぞれの植物の個性が表れてきれいに仕上がります。

これを「寄せ植え」としてこだわる必要はなく、例えば草丈の低い一年草花壇の後ろに宿根草や花木の鉢植えを配置することでも実現できます。宿根草の開花期は比較的短いので、その鉢植えが咲き終われば別の鉢植えと入れ替えるなど、季節によって変化をつける楽しみもあります。

鉢植えとして準備するのは草丈が高めの一年草でもよく、例えば夏以降に咲くコスモス類を大きな鉢やコンテナで育てておき、咲いてから花壇へ移動するのもよいでしょう。



【植物の高低を生かす】

## <球根植物を見直す>

### ～ ムスカリ ～

ムスカリは秋植え球根なので春から準備することはできませんが、庭にムスカリが植えられているなら、今年の5月には花がたくさん咲いているか確認しましょう。ムスカリは植えっぱなしでも咲きますが球根が



【二色咲きのムスカリ】

よく殖えるので、何年も植えたまましていると過密になり花が咲きにくくなっているかもしれません。もし過密になっていたら、葉が枯れる7月頃に掘り上げ、充実した球根を選んで秋までに植え戻すとよいでしょう。

古いムスカリの品種は濃い紫の花ばかりでしたが、近年は2色咲きで花の美しい品種が流通するようになりました。秋には、このような新しい品種を植えてみてはいかがでしょうか。

## <ユリを楽しむ>

北海道はユリの栽培に適しています。ガーデニングで栽培されるユリには大きく分けて三つのグループがあり、それはスカシユリ、テッポウユリ、オリエンタルユリです。概ねこの順番で開花しますが、グループの中でも品種によって開花期に早晚があるので、複数のグループと品種を組み合わせることで、7月上旬から8月下旬にかけて「ユリの花壇」を長く楽しむことができます。

品種も新しいものが次々と出ていて、例えばテッポウユリと言えば純白の品種ばかりでしたが近年はピンクや黄、覆輪のものもあります。またオリエンタルユリと言えばカサブランカに人気があり、かつては球根が高価でしたが、今では気軽に購入できる球根となっています。



【次々に咲くユリ】

ユリも秋植え球根ですが、ここ数年は5月になると、球根から萌芽した状態のポット苗が店頭にたくさん並ぶようになりました。このような苗を植えれば夏には開花しますので、ユリの楽しみ方が増えたと言えます。

## <おわりに>

今回は、北海道のガーデニングを楽しむための植物の植え方と使い方をご紹介しました。庭へいつも通りに花を植えて眺めることで終わらせず、少しずつ工夫することでさまざまな楽しみが広がりますので、これらの一部でもチャレンジしていただければと思います。